

# 防犯灯LED化急増

## 地域コミュニティ形成に好影響

大牟田市内でもLEDを使った防犯灯が増えていく。とくに防犯灯は市内八千五百基のうち、六百六十四基が増え、補助金を支出している市や明るい町づくり推進協議会は予算を追加し対応した。今後LEDを使った防犯灯や街路灯は増加すると見ている。

が進み、LED灯の寿命が約十年とメンテナンスが従来の白銀灯などと比較すると「交換の手間」などが省けることが急増の背景にあると見られている。

# 警固公園に採用

## 信号電材とヘス社の合弁会社

補助金を支出している、大牟田市は来年度の一般予算で既存の街路灯三百基の更新と二百基の新設を見込み、三百五十万円を要求する予定。LED普及の背景には、地域の高齢化

担当している、市地域コミュニティ推進課は「LED灯は、そればかりではなく防犯灯の設置について地域住民が話し合う場を持つようになり、地域の関わり

わりのきつかけを作っています。一定の役割を果たしていることから、来年度予算案は要求額を今年度より一・五倍にしています。要求が認められるかは、これからですが、地域コミュニティの再生にも効果がある防犯灯。できるだけ認められるようになれば」と話している。

地産地消が実現します。そのうなればいいなと思っており、努力していきます」と語った。

現在は、信号電材の生産ラインを活用し街路灯と照明用ポールを生産しており、街路灯をポールから一貫したラインで生産できるのは日本で当社を含めると「社」が強み。

「ただ、受注が増えようと、生産ラインの増設も将来的な課題として浮上ります。私たち独自のラインが必要となるときがきたら、設備投資、新規採用など地域の方々、地域経済にとっても良いことになりま。そうなるように営業も努力していきたいですね」と塚本社長。

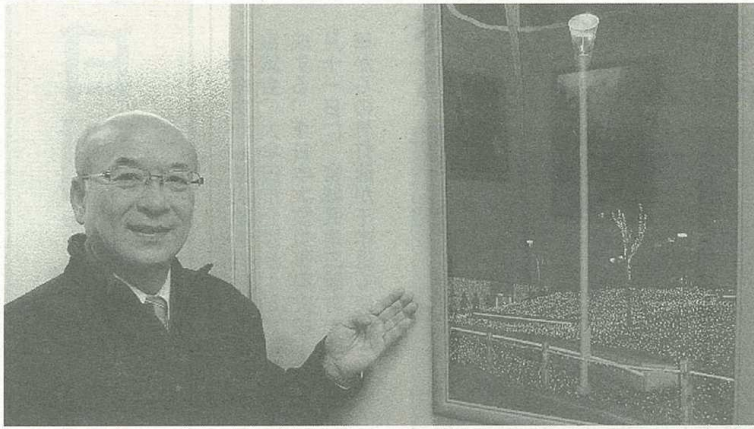
信号機メーカー、信号電材は、ドイツの街路灯メーカー、ヘス社と合弁企業 S.D. Hesse Light in g株式会社(本社、新

港町、塚本敏樹社長を立ち上げ、LEDの街路灯事業に参入。これまでに、長溝線アンダーパスの街路灯に採用されたほか、民間では株式会社エムジーケイが敷地内に「デザイン街路灯」を採用。ほかにも先月リニューアルした、福岡市の警固公園の街路灯に採用されるなど事業を拡大している。

塚本社長によると、そのほかにも熊本県水俣市の公園や学校などにも採用。筑後広域公園の近くにも演出デザイン照明が使われており、なかでも「九州一の集客効果がある福岡市の天神地区でシンボリックな存在の警固公園の街路灯に採用されたことは、我々にとっても営業先にアピールできる強みとなりました。福岡県や福岡市、北九州も管理している道路の街路灯を十年計画でLEDに更新する計画もあり、業績を伸ばすチャンスが多く出来ました」と胸をはる。

拡大する市場への対応として、今後商品の内容を増やす必要があります。私たちの街路灯はデザインを重視し、公園など景観をデザインするデザイナーの方たちの評価を得ようという商品を多くラインアップしています。二年後に五億円の売り上げが目標。公共事業と共に、民間の建物などの屋外の街路灯を多く受注できるように「なれば」と塚本社長。

ほかにも「地域の方から防犯灯はないのといった問い合わせもあります。早々に取り扱えるように現在準備中です。主力製品でもある屋外照明とあわせ地元企業である私たちの製品を使っていたとき、



塚本社長と公園のLED灯



エムジーケイが採用した街路灯

**きものお手入れ専門店**

特殊しみぬき  
なごさ洗い

なごさ本舗 京都店  
大牟田市ちくまち交差点  
TEL.(0944) 57-7023

特別講義もあり、東京海洋大学客員准教授で、日本ユニスコ国内委員会広報大使でタレントの「さかなクン」の特別講義もある。また分科会では、「地域との連携」「はぐくむ力」「学校間交流」二校内体制について、市内の学校をはじめ、九州地方の高校や全国のユニスコスクール二十四校の事例発表、パネルディスカッションがある。問い合わせはユニスコアジア文化センター(03-3226-9455)五九番

社長。

11日、ユニスコスクール地域交流会ひらく

文部科学省、公益財団法人ユニスコ・アジア文化センターは十一日午前九時半から、オームタガーデンホテルで、ユニスコスクール地域交流会 in 九州が開かれる。

共催は大牟田市教育委員会。

市内の公立小中学校と特別支援学校は平成二十三年度に、ユニスコスクールに加盟した。そこで地域交流会では「ユニスコスクールにおける持続発展教育の実践と、役割について考える。